

～みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり～

《基本方針》

岡垣町では、少子高齢化や核家族化が進み、住民相互のつながりが希薄化するなど、地域や家庭を取り巻く環境は大きく変化してきました。それに伴い、虐待や孤独死、生活困窮者への支援や災害時などに手助けが必要な避難行動要支援者への対応など、様々な地域課題が顕在化してきています。また、住民の福祉サービスに対するニーズは多様化し、従来のような高齢者、障害のある人、子どもなどの対象者ごとに支援する個別の制度の中では、多岐にわたるニーズに十分に対応できない状況が生じています。

このような状況の中、年齢や障害の有無にかかわらず、住民や学校、事業者など地域社会を構成するすべての人々が互いに支えあいながら、多様な主体の結びつきにより、ともに課題を解決していく共生社会づくりが求められています。

そして、多様で複合的な地域生活課題を解決するためには、住民相互の支えあいによる互助の取り組みを進め、自助、互助、共助、公助の連携によって、子どもから高齢者まで、すべての住民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けることができるような仕組みを作っていく必要があります。

岡垣町社会福祉協議会では、岡垣町の地域福祉計画と一体的に策定した地域福祉活動計画に基づき、高齢者や障害のある人、子どもなど様々な領域を地域の視点でとらえ、住民主体の地域福祉を支援する立場からより効果的な実践に取り組む予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業の中止や縮小をしました。

《基本理念》

みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり

私たちの暮らしの基盤は「地域」にあります。地域の絆、地域での人と人とのつながりや困ったときに助け合える関係、支えあう仕組みづくりが重要となっています。岡垣町では、「互助」のさらなる充実により、地域で課題を解決していく力や地域での支えあい・助け合いの力の底上げをめざしました。支え手側と受け手側に分かれるのではなく、みんなが互いに支えあいながら、自分らしく活躍できる地域を目指し、基本理念を「みんながつながる“お互いさま”の地域(まち)づくり」としました。

《基本目標》

1. お互いに支えあう「つながり」づくり
2. 地域福祉を支える「ひと」づくり
3. 地域でともに生きる「環境」づくり
4. 誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

《基本目標ごとの取り組み》

1. お互いに支えあう「つながり」づくり

私たちのくらしの基盤は「地域」にあります。地域での人々のつながりや支えあい、生活課題の解決に向けた取り組みが一人ひとりのくらしを守り、豊かなものにしてくれます。近所づきあいは、あいさつ程度と希薄化していますが、地域での支えあいや助け合いの必要性は増えています。

支えあいや助け合いを進めるためには、日頃から地域で交流することを通じて、お互いを知り、「お互いさま」と言える関係づくりを進めていく必要があります。地域の人たちが交流し、つながり、そして、支えあい、助け合うことができる仕組みづくりを進めました。

(1) お互いさま命のネットワークの強化

【具体的な取り組み】

■お互いさま命のネットワークの推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 自治区でのネットワーク活動を推進支援し、見守り協力機関含めた重層的な見守り体制づくりに努めました。また、緊急時には地域・行政と連携して迅速に対応しました。

【主な事業】

1) お互いさま命のネットワーク活動の推進・支援

自治区でのお互いさま命のネットワーク活動推進を目的に、活動に関する相談や情報提供など、自治区活動の支援を行いました。

また、社会的孤立を防ぐ身近な地域での支えあいの基盤となるネットワーク活動を推進・支援するため、地域関係者・関係団体等と連携・協議するなど、地域での重層的な見守り体制の構築に向け取り組みました。

地域での見守り体制の再構築に向け、自治区長会、民生委員児童委員協議会、寿会連合会の三会長および役員との意見交換会を行うなど、孤立させない地域づくりの必要性についての情報共有を行いました。

○地域代表者との意見交換会

令和3年10月14日 いこいの里

出席 自治区長会会長、民生委員児童委員協議会会長、寿会連合会会長、社協職員

内容 孤立させない地域づくり（三者連携の必要性）について

○自治区長会、民生委員児童委員協議会、寿会連合会の役員との意見交換会

令和3年10月16日 いこいの里

出席 自治区長会、民生委員児童委員協議会、寿会連合会の役員 20人

内容 孤立させない地域づくり（三者連携の必要性）について

助言 九州大谷短期大学 教授 中村秀一 氏

(2) ふれあい交流活動の充実

【具体的な取り組み】

■ふれあいサロンの推進

■ふれあい交流事業の充実

■世代間交流の充実

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民同士の交流や居場所づくり、健康づくり・介護予防等を目的とした「ふれあいサロン活動」を推進支援しました。

【主な事業】

1) ふれあいサロン活動の推進・支援

少子高齢化や核家族化の進行による住民同士のつながりが希薄化するなか、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯等が地域で孤立しがちとなっており、各自治区単位での住民主体の通いの場である「ふれあいサロン活動」を、民生委員・児童委員等の関係者と連携して推進・支援しました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響でサロン活動を自粛、急遽中止もしくは年度内中止と判断する自治区が多数あったため、そのような状況に配慮して、自治区長宅を訪問し状況把握や情報提供を行いました。

また、社協だよりを活用して新型コロナウイルス禍でも実施できるようなレクリエーションや脳トレを掲載することで、工夫して間接的な支援に取り組みました。

ふれあいサロン活動支援自治区 9自治区（令和2年度8自治区）

手野区、野間一区、上高倉区、波津区、戸切区、旭西区、塚原区、南高陽区、西山田区

2) ふれあい交流事業の充実

ふれあい交流事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

在宅介護者のつどい、地域ふれあい交流会「社協夏まつり」、障がい者クリスマス交流会
囲碁・将棋大会

3) おもちゃ図書館の運営

障害のある子どもや親が自由に楽しく遊ぶ場、また、同じ悩みを持つ家族が語り合える場として、おもちゃ図書館ボランティアたんぽぽの会の協力により、毎月第2土曜日及び毎週木曜日（第1・3木曜日3歳までの乳幼児に一般開放）に開館しました。

開館日 40日（うち一般開放14日）

利用者数

障がい者（児）：延べ111人・乳幼児等：延べ17人

家族等：延べ141人・見学等：延べ54人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月12日から6月20日、8月1日から9月30日まで、閉館しました。

（3）地域の多様な支えあいの促進

【具体的な取り組み】

■地域コミュニティ活動の推進 ■生活支援体制の構築

■地域での健康づくり・介護予防活動の推進 ■分野を超えた連携の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民主体の助け合いや、地域と事業所の連携など、公的サービスでは困難な助け合いを推進支援しました。

■生活支援コーディネーターとして本人、地域、事業所をつなぐ役割を担いました。

■町内の社会福祉法人とのネットワークの構築に向けて取り組みました。

【主な事業】

1) 生活支援体制整備事業（町受託事業）

新型コロナウイルス感染症再拡大の影響で地域活動の自粛が余儀なくされるなか、社会的孤立が顕在化しており、これまでの地域とのつながりを守るため、地域住民とアイデア

を出し合い「お互いさまの地域づくり」を推進する必要があります。

生活支援コーディネーターとして地域住民等との話し合いの場の開催を含め、これからの地域福祉活動に必要な地域資源の把握・整理を行うとともに、コロナ禍での地域活動の継続を支援するための情報提供や活動支援を行いました。

○話し合いの場（第1層・第2層協議体） 令和4年3月26日 いこいの里

地域に顕在化する課題とともに、コロナ禍においても活動している地域の取り組みを共有することを目的に、話し合いの場を開催しました。

コロナ禍からコロナ後を見据え、これからの地域活動の取組に必要なことについての協議・課題の抽出を行いました。

参加者 50人 自治区長、民児協、事業所、住民（子ども含む）など

○住民公開講座 コロナ時代を共に生きる パネルディスカッション

令和4年2月26日 岡垣サンリーアイ

パネリスト:遠賀保健福祉環境事務所・おんが病院・日本傷痍者更生会・社会福祉協議会
※新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止しました。

○校区・自治区での地域活動等の支援

ふれあいサロンなど居場所を必要とする自治区活動の支援を目的に、コロナ後を見据え地域活動再開に向け取り組む自治区を中心に、情報提供および活動支援を行いました。

【校区支援】

○海老津校区コミュニティ運営協議会 健康・福祉部会

令和3年11月17日 東部公民館

出席 海老津校区コミュニティ会長・役員、社会福祉協議会 14人

旭中区、旭西区、茅原区、高尾区、新海老津区、野間二区

内容 コロナ禍での居場所の必要性（ふれあいサロン説明）

○海老津校区コミュニティ運営協議会 健康・福祉部会

令和4年1月23日 東部公民館

出席 海老津校区内自治区長・役員、社会福祉協議会 25人

南山田区・茅原区・旭西区・旭中区・旭東区・新海老津区・高尾区・海老津区
上畑区・野間一区・東高倉区・野間四区・公園通り東区・校区コミュニティ広報部総務部

内容 ふれあいサロン情報交換会

【自治区支援】

○居場所立上げ支援／上畑区（海老津校区）

○コロナ禍でのふれあいサロン活動支援（情報提供および活動支援）

内浦校区／波津区、手野区

吉木校区／三吉区、吉木区、上高倉区、塚原区、公園通り中区

海老津校区／野間一区、東高倉区、旭西区、旭中区、旭東区、新海老津区、上畑区

山田校区／南高陽区、緑ヶ丘区、百合ヶ丘区、西山田区、山田区

戸切校区／戸切区、戸切白谷区、上海老津区、龍王団地区

○岡垣町との連携及び情報共有

本事業を活用して、地域共生社会の実現、校区コミュニティのあり方を模索するため、岡垣町長寿あんしん課、福祉課、地域づくり課、社協に相談支援包括化推進員を配置し、推進会議を行いました。毎月行う予定としていますが、新型コロナウイルス感染症の影響

のため5回の開催となりました。

令和3年4月21日 第1回生活支援コーディネーター連絡会

・・・令和2年度岡垣町相談支援体制整備事業実績報告について 等

令和3年5月19日 第2回生活支援コーディネーター連絡会

・・・コロナ禍における生活支援体制整備事業の進捗状況について 等

令和3年6月30日 第3回生活支援コーディネーター連絡会

・・・地域での住民主体の移動支援について 等

令和3年9月1日 第4回生活支援コーディネーター連絡会

・・・地域での住民主体の移動支援について

令和4年1月19日 第5回生活支援コーディネーター連絡会

・・・地域での住民主体の移動支援について

2) 地域ケア会議への参加

個別事例について、多職種による専門的かつ多様な視点で検討を行うことで、より自立支援・重度化予防につながる支援内容を目指して開催される地域ケア会議へ参加をしました。個別課題の検討を積み重ねることで、地域の共通課題を把握し、地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくりにつなげています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、リモートでの開催となりました。

会議の参加者：地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所
理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、社会福祉協議会
福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所 等

令和3年10月19日 第1回地域ケア個別会議 生活支援コーディネーター出席

令和3年12月22日 第2回地域ケア個別会議 生活支援コーディネーター出席

3) 地域介護予防活動支援事業（町受託事業）

地域におけるネットワークの構築、介護予防の知識や方法を地域に普及する人材育成及び介護予防に資する地域組織（ふれあいサロンや認知症カフェ等）の支援を実施しました。

地域介護予防活動支援

・ふれあいサロン活動支援 9地区3団体 17回 参加者延べ280人

（令和2年度：8地区1団体 24回 参加者延べ417人）

認知症カフェ運営支援 2箇所2回 参加者延べ19人

（令和2年度：1箇所2回 参加者延べ21人）

出前楽しく健康教室

・講師 NPO法人北九州スポーツクラブ連絡会

・中央公民館：全19回（コロナ感染拡大の影響で5回中止）

参加人数延べ 837人

東部公民館：全36回（コロナ感染拡大の影響で12回中止）

参加人数延べ 1,678人

脳若トレーニング教室

・講師 遠賀中間医師会おかがき病院 にこにこクラブ いこいの里

・全12講座（10月8日から12月24日の毎週金曜日）

・受講者13人

介護予防サポーター養成講座

・講師 NPO法人北九州スポーツクラブ連絡会等

- ・全 12 回（令和 3 年 11 月 11 日から令和 4 年 2 月 3 日までの毎週木曜日）
- ・受講者 10 人（うち修了者 8 人）

介護予防サポーターのつどい

- ・第 1 回 令和 3 年 8 月 31 日（意見交換会、運動実技予定） コロナ禍中止
- ・第 2 回 令和 4 年 3 月 4 日 岡垣サンリーアイ ウェーブアリーナ

参加者 45 人

内 容 情報交換会 事例発表 西高陽区、緑ヶ丘区

運動実技 NPO 法人北九州スポーツクラブ連絡会

介護予防サポーター地区活動支援 実施自治区 6 区

ケア・トランポリン運動教室

指導 ケア・トランポリン協会

①デモンストレーション 令和 3 年 7 月 30 日 いこいの里 参加者 9 人

②ケア・トランポリン運動教室 前期の部 いこいの里 参加者 20 人

全 20 回（6 月 23 日、7 月 1・6・14・21・28 日、8 月 4 日、10 月 6・13・20・27 日、11 月 2 日）

コロナ禍中止分の補講／11 月 10・17・24 日、12 月 1・8・15・22 日、1 月 5 日）

③ケア・トランポリン運動教室 後期の部 いこいの里 参加者 15 人

全 20 回（11 月 10・17・24 日、12 月 1・8・15・22 日、1 月 5・12・19・26 日、2 月 2・9・17・22 日、3 月 2・9・16・23・30 日）

自動血圧計・非接触型体温計貸出業務

- ・自動血圧計貸出 10 件（自治区、寿会等）
- ・非接触型体温計貸出 6 件（岡垣町役場）

4) 社会福祉法人連携協議会の運営

町と社会福祉法人の福祉避難所の設置に向けて、連携協議会の事務局である本会が調整をしました。

岡垣町内社会福祉法人連携協議会（R2.1 発足）

参加法人 社会福祉協議会（会長・事務局）、日本傷痍者更生会（副会長）

高章会（監事）、岡垣睦福祉会、つつみ会、局会、いわき福祉会

岡垣町と社会福祉法人福祉避難所協定締結式

令和 3 年 8 月 16 日 岡垣町役場

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、役員会議や研修会を中止しました。

2. 地域福祉を支える「ひと」づくり

地域福祉の主役は、地域の人たちです。子どもから高齢者まで、地域のすべての人たちが地域福祉の担い手としての自覚を持ち、「お互いさま」の心で支えあい、助け合う人づくりを進めました。

また、地域の身近な支援者である民生委員・児童委員の活動を支援し、ボランティアや地域の「お世話焼きさん」など地域福祉を推進する「ひと」づくりを進めました。

(1) 福祉のこころを育む意識の醸成と啓発

【具体的な取り組み】

- 地域と学校の連携体制の推進 ■福祉教育の推進
- 認知症への理解の促進 ■障害のある人の差別解消の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 学校と連携し、児童を対象に福祉教育を実施しました。

【主な事業】

1) 福祉体験講座（学校・地域）の実施

他人への思いやりや、やさしい心を育むことを目的に、小・中学校等と連携し、福祉教育を実施しました。ウィルチェアラグビー（車いすラグビー）体験講座で障害者スポーツを体験し、手話体験では通訳者・聴覚障害者を講師として自分の名前を指文字と手話で紹介できる体験講座を実施しました。

○福祉教育導入講座（“福祉とは”）

内浦小学校	4年生（1クラス）	1日：1コマ	参加者	11人
吉木小学校	4年生（2クラス）	1日：2コマ	参加者	43人
海老津小学校	4年生（3クラス）	3日：3コマ	参加者	97人
山田小学校	4年生（3クラス）	3日：3コマ	参加者	107人
戸切小学校	4年生（1クラス）	1日：1コマ	参加者	9人

○福祉体験講座（車いす体験）

内浦小学校	4年生（1クラス）	1日：2コマ	参加者	10人
吉木小学校	4年生（2クラス）	1日：4コマ	参加者	40人
海老津小学校	4年生（3クラス）	2日：6コマ	参加者	98人
山田小学校	4年生（3クラス）	3日：4コマ	参加者	111人
戸切小学校	4年生（1クラス）	1日：2コマ	参加者	9人
岡垣中学校	1年生（4クラス）	2日：8コマ	参加者	144人

○ウィルチェアラグビー体験講座（講師：ウィルチェアラグビー選手 田原 氏）

内浦小学校	4年生（1クラス）	1日：3コマ	参加者	11人
吉木小学校	4年生（2クラス）	1日：4コマ	参加者	44人
海老津小学校	4年生（3クラス）	1日：3コマ	参加者	98人
戸切小学校	4年生（1クラス）	1日：3コマ	参加者	9人

○点字体験、アイマスク体験等

内浦小学校	4年生（1クラス）	1日：2コマ	参加者	10人
海老津小学校	4年生（3クラス）	3日：6コマ	参加者	94人
戸切小学校	4年生（1クラス）	1日：2コマ	参加者	9人

○手話体験（手話通訳者：石田 氏、聴覚障害者：太田夫妻）

内浦小学校	4年生（1クラス）	1日：2コマ	参加者	10人
海老津小学校	4年生（3クラス）	1日：3コマ	参加者	98人

○福祉教育読本「ともに生きる」、福祉教育教材「ともに生きる」配布

町内5年生を対象に、福祉を身近なものとしてとらえ、ともに生きる大切さを学習するための副読本として、福祉教育読本「ともに生きる」配布しました。また、福祉教育での教材として活用してもらうため、福祉教育教材「ともに生きる」を町内4年生に配布しました。（福岡県社協作成）

福祉教育読本「ともに生きる」配布数 330冊

2) 認知症サポーター養成講座の実施

認知症を正しく理解し、地域でサポートができる人材づくりの講座を、行政と協働し中学生等を対象に開催しました。

○認知症ケア地域推進事業

認知症サポーター養成講座 岡垣中学校1年生（4クラス） 参加者 157人

(2) 地域活動を支える担い手の育成

【具体的な取り組み】

- 民生委員・児童委員の活動への支援
- 地域福祉活動を担う人材の育成

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 民生委員児童委員協議会の事務局として、各委員との連携を深め、その取り組みを支援しました。
- 地域福祉に関する研修会や講座を開催し、人材育成に取り組みました。

【主な事業】

1) 岡垣町民生委員児童委員協議会との連携強化

社協と民児協とは、地域福祉を展開していく上で協力が不可欠であり、民児協との連携を強化するため、社協が民児協の事務局を担い支援しました。

2) 地域人材育成事業（町受託事業）

地域包括ケアシステムの構築に向け、すべての住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができるよう、住民に身近な圏域において、自らが地域福祉の担い手として主体的に行動する人材育成を図ることを目的に地域人材育成講座を実施しました。

・参加者 10講座 延べ223人

日時	内容
【第1・2回】 10月16日 10時-12時 13時-15時	講演① 住民参加による地域福祉活動の重要性と町の未来を考える ～住み慣れた地域で暮らすために私たちにできること～ 講師 九州大谷短期大学 福祉学科 教授 中村秀一 氏 講演② 地域の代表者による意見交換会 講師 九州大谷短期大学 福祉学科 教授 中村秀一 氏
【第3・4回】 11月6日 10時-12時 13時-15時	講演① 地域共生社会づくりに向けて ～「コミュニティ・エンパワメント」の実践～ 講師 臨床ソーシャルワーク研究所・Kinugasa&Associates 代表 衣笠一茂 氏 講演② ワークショップ・情報交換会 講師 臨床ソーシャルワーク研究所・Kinugasa&Associates 代表 衣笠一茂 氏
【第5・6回】 11月20日 10時-11時 11時15分 -12時15分	講演① ふれあいサロン交流会 講師 実践報告者 野間一区ふれあいサロン 緑ヶ丘区いきいきサロン 講演② 実践者を囲んでの情報交換会 講師 実践報告者 野間一区ふれあいサロン 緑ヶ丘区いきいきサロン 内 容 各サロンにおける工夫や、運営に関する悩み事などの情報共有

【第7・8回】 12月4日 9時30分 -10時25分 10時45分 -11時40分	体験① 軽スポーツ紹介・体験会（戸切・内浦校区） 講師 社協職員 内容 輪投げ、ペタンク、スカットボールの説明及びデモンストレーション・体験 体験② 軽スポーツ紹介・体験会（吉木校区） 講師 社協職員 内容 輪投げ、ペタンク、スカットボールの説明及びデモンストレーション・体験
【第9・10回】 12月18日 9時30分 -10時25分 10時45分 -11時40分	体験③ 軽スポーツ紹介・体験会（海老津校区） 講師 社協職員 内容 輪投げ、ペタンク、スカットボールの説明及びデモンストレーション・体験 体験④ 軽スポーツ紹介・体験会（山田校区） 講師 社協職員 内容 輪投げ、ペタンク、スカットボールの説明及びデモンストレーション・体験
（第11・12回） ※コロナ禍中止 1月22日予定	講義① いま地域に求められる災害対応力 講師 別府市防災局 防災危機管理課 防災推進専門員 村野淳子 氏 講義② ”もしも”の備え！「見て、ふれて、災害を学ぶ」 ～防災グッズ体験会～ 講師 別府市防災局 防災危機管理課 防災推進専門員 村野淳子 氏
【第13・14回】 ※コロナ禍中止 2月5日予定	講演 岡垣町の未来を創る 講師 SDGs de 地方創生公認ファシリテーター 眞山 昌 氏
【第15・16回】 ※コロナ禍中止 2月19日予定	講演 認知症になっても安心して暮らせる地域づくり 講師 福岡県高齢者地域包括ケア推進課 在宅介護・予防係長 福島 亘 氏
【第17・18回】 ※コロナ禍中止 3月5日予定	講演 終活セミナー “みんなで一緒に「地域で考える終活」” 講師 終活パートナー九州 上級終活カウンセラー 眞武 純哉 氏
【第19・20回】 ※コロナ禍中止 3月19日予定	講演 岡垣町の未来を創る 講師 SDGs de 地方創生公認ファシリテーター 眞山 昌 氏

（3）ボランティア活動の推進

【具体的な取り組み】

■ボランティアの育成、支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■福祉ボランティア活動の支援を行いました。

1) 福祉ボランティアの養成・支援

社協に登録している福祉ボランティア 17 団体に対し、福祉ボランティア活動を支援しました。

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア研修会
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

○ふくおか“きずな”フェスティバル

令和4年3月1日～3月31日

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、WEB開催のみ。

・記念講演「ボランティアの心得と次世代への継承」

講師 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 早瀬 昇 氏

・高齢者分科会「コロナ禍のボランティア活動

～つながりを切らないボランティアのかたち～」

講師 ご近所福祉クリエイター 酒井 保 氏

・防災分科会「地域の防災力を高めるために」

講師 一般社団法人地域安全協会 代表理事 山本 一 氏

3. 地域でともに生きる「環境」づくり

全ての人年齢や状況を問わず、その人のニーズに合った支援が受けられるよう全世代・全対象型の地域包括支援体制づくりが求められています。支援を必要とする人が、必要とするときに、適切なサービスを利用できるように、きめ細かな情報提供や相談支援体制の充実を図るとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる環境の整備に努めました。

また、地域福祉を推進するため、地域の人たちが地域の色々な場所で、様々な関りを持ち交流できるよう地域福祉の拠点づくりを継続支援します。

(1) きめ細かな情報提供と相談支援体制の充実

【具体的な取り組み】

■相談支援体制の充実 ■広報広聴機能の強化

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■相談については、他職種・他機関と連携し困りごとの解決を図りました。

■全国の先進事例や町内での優れた取り組みを把握し、社協だよりやホームページを活用し情報発信に努めました。

【主な事業】

1) 相談支援体制の充実

社協は、現在の法律や制度で定められた福祉サービスに対する福祉課題や、高齢者の買い物など日常生活上起こり得る生活課題について、地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制の構築に取り組みました。

○総合福祉相談窓口

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、国や県、町の動向を把握し、法令や制度を網羅した手引きを活用し、すべての職員が対応できるように、職員間の情報共有に努めました。

総合福祉相談窓口（毎月2回・いこいの里）、電話受付等

総合福祉相談 618件（令和2年度：936件）

○法律相談

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築する

ために、職員の資質向上や分かりやすい情報提供に努め、法律相談を開催しました。

法律相談（弁護士 12 回：毎月・いこいの里）

法律相談 70 件（令和 2 年度：69 回）

2) 広報広聴機能（社協だより・ホームページ）の強化

○社協だよりの充実

社協の広報紙社協だよりを町内全戸に配布し、社協の事業や地域の福祉活動等の記事を掲載し、事業の普及・啓発に努めました。

発行総部数 84,000 部（6 回／5・7・9・11・1・3 月：全戸配布 14,000 部）

○広報広聴委員会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、広報広聴委員会を中止しました。なお、広報広聴委員会委員から意見聴取を行い、社協だよりの紙面の充実を図りました。

○社会福祉協議会ホームページ

社会福祉協議会の活動内容やいこいの里入浴施設の PR 等、掲載内容の充実を図るとともに常に新しい情報を公開するように努めました。

（2）福祉サービスの充実と基盤の整備

【具体的な取り組み】

■いこいの里の運営 ■地域福祉を支える財源等の確保

■各種福祉関連計画に掲げたサービスの提供

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■共同募金運動を推進し、地域福祉のために積極的に活用しました。

■従来の分野では対応できない地域の問題や、制度の狭間にある複雑な課題に対し、地域での生活支援体制を行政と協議しました。

【主な事業】

1) いこいの里の運営（指定管理期間：令和 3 年度～令和 7 年度）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館や利用制限等の影響により、大幅に利用者が減員しました。

《いこいの里施設利用状況》

区分 \ 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
施設利用者（利用率）	72,581 人（57.0%）	62,620 人（51.7%）
ふれあい館利用者 （浴室施設利用者は除く）	16,166 人	14,673 人
浴室施設利用者	26,463 人	23,632 人

利用率：使用日/開館日

2) 共同募金運動の推進

共同募金会岡垣町支会と連携・協力し、共同募金運動を推進しましたが、新型コロナウイルスの影響はあったが、昨年度より募金が増額しました。

募金実績 共同募金 5,295,320 円（令和 2 年度 5,234,770 円）

歳末募金 488,000 円（令和 2 年度 478,000 円）

3) 介護保険等サービスの質の向上

①居宅介護等事業

介護保険制度において、要介護等と認定された高齢者や障害者総合支援法における障害

支援区分の判定を受けた利用者に対して、質の高いサービスの提供を行うため、職員を対象とした研修会の開催や資格取得のための勉強会などを積極的に行いました。

訪問介護事業では、身体介護を必要とする利用者が増えたことで、増収となりました。

居宅介護支援事業は、居宅介護支援、介護予防支援とも利用者が増えたため増収となりました。

収入 居宅介護支援事業 14,162,573 円（令和2年度：12,851,850 円）

訪問介護等事業 44,997,687 円（令和2年度：37,804,406 円）

《介護保険事業利用状況》

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2
訪問介護事業	48	50	45	45	50	50	52	56	57	64	70	70	657	625
介護予防・日常生活 支援 総合事業	70	70	68	67	70	73	73	71	70	67	72	68	839	799
居宅介護支援 事業	72	72	70	68	68	70	71	72	73	74	71	72	853	811
介護予防支援 事業	18	19	20	24	26	31	32	31	31	31	30	27	320	207
延利用者数	208	211	203	204	214	224	228	230	231	236	243	237	2,669	2,442

②障がい者の自立に関する取り組み

居宅介護・重度訪問介護事業では、障害のある人等がその有する能力に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように訪問介護員（ホームヘルパー）が入浴、排せつ、食事の介護、その他の生活全般にわたる援助を行いました。同行援護事業では、常にサービスを提供できる体制を整えています。

《障害者総合支援法に基づく居宅介護等事業利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2
居宅介護等事業	13	13	14	14	12	13	15	16	15	15	16	16	172	130
地域生活支援事業	1	3	2	2	1	3	3	3	1	1	2	1	23	16
同行援護事業	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	9	2

③短期訪問介護事業

介護保険制度で自立と認定された人や介護保険制度外での支援が必要な人等へ訪問介護サービス（ホームヘルプサービス）を実施しました。

《短期訪問介護事業》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2
短期訪問介護事業	18	20	23	23	22	21	22	25	22	24	20	17	257	190

4) 在宅福祉サービスの充実

- ・送迎サービス事業
- ・入浴サービス事業
- ・福祉機器貸与事業
- ・福祉車両貸与事業
- ・コミュニティ車両貸与事業
- ・配食サービス事業（町受託事業）
- ・手話通訳者派遣事業（町受託事業）

○送迎サービス事業

低所得で車いすや常時つえが必要な高齢者や障がい者の福祉向上及び社会参加の促進・支援として、送迎ボランティアの協力のもと送迎サービス事業を実施しました。

《送迎サービス利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2
送迎回数	20	19	23	16	22	25	15	21	26	21	25	26	259	146
ボランティア活動人員 (延)	52	44	59	41	50	58	39	50	55	48	52	60	608	383

○入浴サービス事業

利用者なし。

○福祉機器貸与事業

福祉機器を貸与することで、在宅の高齢者や障害のある人等に日常生活の利便性の向上が図れるように支援しました。

《福祉機器貸与延台数》 延 139台

車いす	103台	ベッド	5台	歩行器(車)	9台
ポータブルトイレ	6台	シャワー椅子	8台	介助バー	4台
入浴用踏み台	2台	シャワーキャリー	1台	オーバーテーブル	1台

○福祉車両貸与事業

高齢や障害等のため車いすを使用しなければ外出ができない人等の福祉の増進を図るため、社協所有の福祉車両(車いす対応)の貸与事業を実施しました。

27回 (令和2年度:4回)

○コミュニティ車両貸与事業

ボランティア活動や地域コミュニティ活動を支援するため、軽トラックの貸与事業を実施しました。

2地区・3団体 16回 (令和2年度:1地区・1団体:6回)

○配食サービス事業(町受託事業)

調理・配食ボランティアやシルバー人材センター等への業務委託により、週5回(火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日)の255日配食サービス事業を実施しました。

《配食サービス利用状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2
配食日数	22	21	22	23	19	22	22	21	20	20	20	23	255	253
配食数	2,015	1,962	2,096	2,160	1,839	2,306	2,372	2,312	2,112	2,055	2,049	2,385	25,663	24,747
平均配食数	92	93	95	94	97	105	108	110	106	103	102	104	101	98

○手話通訳者派遣事業(町受託事業)

聴覚障がい者、音声・言語障がい者の日常生活や社会生活におけるコミュニケーションを支援するために、手話通訳者を派遣しました。

《コミュニケーション支援状況》

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2
利用者数	8	7	3	10	9	5	9	9	10	9	11	8	98	77
派遣者数	8	7	3	9	9	5	9	9	9	9	11	8	96	75

(3) 人にやさしい生活環境づくり

【具体的な取り組み】

- 地域福祉の活動拠点づくり
- 移動手段の確保
- ユニバーサルデザインの推進と啓発

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 地域での有償サービスや、地域と事業所の連携による新たな移動支援サービスの取り組みを行政と協議しました。

【主な事業】

1) 地域福祉の活動拠点づくり

地域共生社会の実現に向け、戸切校区コミュニティ運営協議会では、子どもから大人までだれでも利用できる地域交流拠点整備に向けた検討が進められています。住民主体の地域福祉を推進するための拠点づくりを継続して支援します。

2) 移動支援サービスの検討・支援

○送迎サービス事業の総合事業(介護保険制度)への移行について、行政と協議しました。

令和4年3月16日 関係課との移動支援打ち合わせ

4. 誰もが安心して暮らせる「まち」づくり

災害は、ある日突然に起こるもので、日常の備えが欠かせません。特に災害発生時は、地域のチカラ（互助）が重要です。そこで、災害時や緊急時に適切に対応できるよう、支援が必要な人の把握や地域での見守り体制を強化しました。

また、関係機関と連携し、生活に困窮した人や制度の対象とならない制度の狭間にある人への支援や、虐待防止に関する施策の推進や成年後見制度の普及に努め、権利擁護を必要とする人に適切な支援を行いました。

(1) 災害時・緊急時の助け合いのしくみづくり

【具体的な取り組み】

- 避難行動要支援者支援体制の確立
- 自主防災組織の育成
- 災害ボランティアセンターの設置
- 福祉避難所の整備

【社会福祉協議会が取り組むこと】

- 福祉的な配慮が必要な場合は福祉避難所を設置し、適切に運営しました。

【主な事業】

1) 災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施

災害ボランティアセンターの設置については、町と協定を締結しています。

福岡県総合防災訓練が中間市で開催されるため、災害ボランティアセンター運営訓練に参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となり運営訓練が実施できませんでした。

2) 災害時の広域的な連携体制の強化

災害時において、効率的・効果的に災害ボランティア活動などの被災者支援活動を行えるように、広域的な災害支援協定を締結し、連携しています。

○岡垣町社会福祉協議会と公益社団法人ひびき成年会議所との災害時相互協力協定 (H30.2)

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会災害時相互支援協定 (H30.8)

○中間・遠賀地区社会福祉協議会と公益社団法人ひびき青年会議所の災害時相互協力協定（H30.8）

○岡垣町社会福祉協議会・津幡町社会福祉協議会災害時相互応援協定（H31.3）

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会と遠賀ロータリークラブとの災害時相互協力協定（R2.3）

3）福祉避難所の設置・運営

福祉避難所については、いこいの里が災害ボランティアセンターの拠点となるため、行政と福祉避難所の設置について岡垣町と協定を締結しました。

令和3年8月16日 岡垣町役場

（2）自立を支えるための支援

【具体的な取り組み】

■生活に困窮した人の自立支援 ■更生保護活動の支援

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■ふくおかライフレスキュー事業に参加し、生活困窮者の自立を支援するネットワークづくりに取り組みました。

■福岡県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業を通じ、生活困窮者の社会的、経済的自立を支援できるよう努めました。

【主な事業】

1）ふくおかライフレスキュー事業（実施主体 福岡県社協）

ふくおかライフレスキュー事業は、高齢者の介護・障害児者への支援・児童の養育等、さまざまな専門性を備え長年に渡り地域で福祉を支えてきた社会福祉法人が、地域の課題に向き合い、訪問・相談を通じて、困りごとが解決できるよう支援を行う社会貢献の取り組みです。岡垣町からは2法人4事業所が参加し、地域の困りごと解決に取り組みました。令和3年度においては、生活福祉資金特例貸付の制度があったので、ライフレスキューの援助に発展する相談はありませんでした。

参加法人 社会福祉協議会、日本傷痍者更生会（恵の家、希望舎、報恩母の家）

実績 ふくおかライフレスキュー事業 0件（令和2年度：1件）

○ふくおかライフレスキュー事業第6回フォローアップ研修（Web研修）

令和3年11月24日

○ライフレスキュー及び生活福祉資金貸付制度についての説明会

令和4年3月22日 更生会にじの郷 出席11人（恵の家、海老津園、社協職員）

2）生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

景気低迷や新型コロナウイルス感染症が原因による離職や母子世帯等で生活に困窮している方等の相談を行い、貸付要件に該当している場合は、生活福祉資金の貸付により、自立更生の支援をしました。

相談件数：27件（令和2年度：42件）

貸付件数：10件（令和2年度：19件）

◎緊急小口資金：3件 300,000円

内訳（生保支給までのつなぎ：3件）

◎教育支援資金：2件 1,217,000円

内訳（教育支援費：1件、就学支度費：2件）

◎福祉資金：5件 787,000円

内訳（生活保護受給者生活必需品：3件、療養費：2件）

3) 生活福祉資金（緊急小口資金、総合支援資金）特例貸付事業（県社協受託事業）

新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業等により、一時的又は継続的に収入が減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における総合支援資金（生活支援）及び福祉資金（緊急小口資金）について特例措置が設けられ、資金貸付の相談窓口として、令和2年3月23日から対応しました。

※総合延長貸し付けは令和3年6月末、総合再貸付は令和3年11月末で申請期間を終了している。

相談件数 527件（令和2年度：788件）

（内訳）

緊急小口資金 208件（令和2年度：421件）

総合支援資金 141件（令和2年度：231件）

総合延長貸付 53件（令和2年度：103件）

総合再貸付 125件（令和2年度：33件）

貸付件数 296件：124,600,000円（令和2年度410件：148,770,000円）

（内訳）

緊急小口資金 100件：19,700,000円（令和2年度 200件：37,420,000円）

総合支援資金 100件：53,550,000円（令和2年度 149件：79,800,000円）

総合延長貸付 26件：13,500,000円（令和2年度 49件：25,650,000円）

総合再貸付 70件：37,850,000円（令和2年度 12件：5,900,000円）

（3）権利擁護を必要とする人への支援

【具体的な取り組み】

■成年後見制度の普及と利用促進 ■金銭管理に不安を抱える人への支援

■死後事務の支援 ■虐待やDV被害の防止対策

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■法人後見事業の取り組みについての検討を行いました。

■福岡県社会福祉協議会が行う日常生活自立支援事業を通して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを行いました。

■ずっと安心プラン事業（葬儀納骨残存家財処分などの死後事務委任）の充実に努めました。

【主な事業】

1) 法人後見事業の検討

身寄りのない高齢者等の権利擁護のため、日常生活自立支援事業の契約者に対し、引き続き成年後見人等になることで安心と信頼に基づく支援が継続して実施できるよう、法人後見事業実施に向けた関係課・関係機関との情報交換等を行いました。

- ・成年後見制度利用促進基礎研修会

令和3年8月12日 春日市クローバープラザ コロナ禍リモート研修に変更

対象 法人後見事業実施社協職員（法人後見事業実施検討中の社協を含む）

- ・法人後見事業実施社協意見交換会

2) 日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

認知症、知的障害、精神障害の方を対象に、本人の自立に向けて福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行いました。また、今後も認知症高齢者等対象者の増加

が見込まれるため、関係機関等との情報共有を含め本制度の周知啓発を行いました。

- ・日常生活自立支援事業契約者 23 人、支援件数延べ 324 件
（令和 3 年度：契約者 22 人、支援件数延べ 295 件）

3) ずっと安心プラン事業

高齢者や障害のある人などが安心して生活できるよう、社協が事前に預託金を預かり、葬儀・家財処分などのサービスや定期的な見守りサービス・入退院等の支援を行うずっと安心プラン事業を実施しました。また、終活に関する専門相談窓口設置や町の空き家対策と連動した終活セミナーの開催など、事業PRに取り組みました。

契約者 4 人、相談延べ 56 件（令和 2 年度：契約者 3 人、相談延べ 64 件）

○終活セミナー（全 2 講座） いこいの里

講 師 終活パートナー九州 真武 純哉 氏

第1回 令和3年12月22日 いこいの里 参加者 26 人

講 演 「どこでどう迎えるか 最期の看取り」

説 明 都市建設課「みんなで考えよう 空き家問題」

第2回 令和4年3月9日 いこいの里 参加者 16 人

講 演 「あなたの家族に合ったカタチは？ お寺とお墓を考える」

4. 法人としての取り組み

【具体的な取り組み】

■行政、関係機関・団体との連携強化

■役員体制および事務局体制の強化

○社会福祉協議会役員体制の強化

研修会等への参加については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

○社会福祉協議会事務局体制の強化

職員の資質の向上や業務量に応じた適切な職員の配置など、より一層の事務局体制の強化を図るとともに、多様な福祉ニーズに対応できるように、職員の自主的な勉強会や情報交換会を開催しました。

社協の事業展開を迅速かつ効率的に行うため、職員定例会を開催しました。

○その他の事業

法人設立 30 周年記念式典

法人設立 30 周年を迎える岡垣町社協の歴史を振り返り、法人を支えた住民等に感謝を伝えるとともに、住民の地域福祉への関心を高め、これまで以上に地域から必要とされる法人を目指すことを目的として開催しました。

令和 3 年 10 月 30 日 いこいの里

参加者 145 人

法人設立 30 周年記念会長表彰

被表彰者

3 人（元会長、長期就任理事）

9 団体（自治区長会、民児協、寿会連合会、ボランティア団体）

社協会長表彰

社会福祉の増進に努め、その功績が顕著な人に対し、表彰状及び感謝状を贈呈しました。

令和3年10月9日 いこいの里

被表彰者 21人

民生委員・児童委員特別功労者 1人

社会福祉事業協力者 19人

特別表彰（寄附）1人

助成事業

児童養護施設や要援護児童等に対し、助成金を交付しました。

《活動助成金交付内容》

- ・児童養護施設報恩母の家（交流会等）
新型コロナウイルスの影響で交流会等中止。
- ・自転車通学生ヘルメット購入費補助
岡垣中学校 35人、岡垣東中学校 58人
- ・修学旅行費補助（要保護・準要保護等の児童・生徒を対象）
岡垣中学校 30人、岡垣東中学校 17人
内浦小学校 3人、吉木小学校 9人、海老津小学校 18人、
山田小学校 16人、戸切小学校 4人
- ・特別支援学級運営費補助
岡垣中学校 14人、岡垣東中学校 9人
内浦小学校 1人、吉木小学校 11人、海老津小学校 16人、山田小学校 14人、戸切小学校 1人
- ・通級指導学級運営補助
岡垣中学校 6人、海老津小学校 17人、山田小学校 12人

歳末たすけあい事業

在宅で生活している重度の障がい者（児）や施設入所者に、歳末見舞金を配布しました。また、ひとり暮らし高齢者等へ年賀状を送る事業を実施する自治区（要申請）を対象に、年賀はがきを配布しました。

在宅の重度障がい児・者（歳末見舞金）	44人
障害者支援施設「希望舎」入所者（歳末見舞金）	47人
障害者支援施設「こすもす園」入所者（歳末見舞金）	48人
共同生活援助施設「あゆみヶ丘」入所者（歳末見舞金）	27人
児童養護施設「報恩母の家」入所者（歳末見舞金）	65人
年賀はがきの配布（27自治区）	1,186枚

新型コロナウイルス感染症関係事業

- ・新型コロナウイルス感染症に係る自宅療養者等生活支援事業（町受託事業）
支援対象者 546人（132世帯・食料品480セット・日用品132セット）
- ・ワクチン接種会場送迎事業（町受託事業）
送迎回数 21回

○各会議開催状況

理事会・評議員会開催状況

<理事会>

第1回	6月8日	議案第1号	理事選任候補者の推薦について
		議案第2号	監事選任候補者の推薦について
		議案第3号	評議員選任候補者の推薦について
		議案第4号	評議員選任・解任委員会委員の選任について
		議案第5号	第1回評議員選任・解任委員会の開催について
		議案第6号	社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会表彰規程の臨時特例に関する規程の制定について
		議案第7号	令和3年度社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会会長表彰及び感謝の対象者の決定について
		議案第8号	令和2年度事業報告について
		議案第9号	令和2年度収入支出決算
		議案第10号	第1回評議員会（定時評議員会）の開催について
第2回	6月24日	議案第11号	会長の選定について
		議案第12号	副会長の選定について
		議案第13号	常務理事の選定について
第3回	9月21日	議案第14号	非常勤役職員等報酬及び費用弁償規程の一部を改正する規程
		議案第15号	第2回評議員会の開催について
第4回	2月17日	議案第16号	事務局規程の一部を改正する規程
		議案第17号	就業規則の一部を改正する規則
		議案第18号	令和3年度補正予算（第1号）
		議案第19号	第3回評議員会の開催について
第5回	3月22日	議案第20号	職員給与規程の一部を改正する規程
		議案第21号	経理規程の一部を改正する規程
		議案第22号	令和3年度補正予算（第2号）
		議案第23号	令和4年度事業計画について
		議案第24号	令和4年度予算
		議案第25号	第4回評議員会の開催について

<評議員会>

第1回	6月24日	議案第1号	理事の選任について
		議案第2号	監事の選任について
		議案第3号	令和2年度事業報告について
		議案第4号	令和2年度収入支出決算
第2回	9月30日	議案第5号	非常勤役職員等報酬及び費用弁償規程の一部を改正する規程
第3回	2月25日	議案第6号	令和3年度補正予算（第1号）
第4回	3月30日	議案第7号	令和3年度補正予算（第2号）
		議案第8号	令和4年度事業計画について
		議案第9号	令和4年度予算